With COVID-19 の状況下における生活満足度の要因分析

An analysis of factors of life satisfaction under COVID-19 pandemic

佐藤徹治研究室　17B2060　島﨑　海都
17B2751　花澤　周平

1.　はじめに

現在世界中でCOVID-19が流行している. COVID-19は一般的に飛沫や他人との接触によって感染する．日本でも様々な感染症対策が行われている．マスクを着用したままの生活が確立し，密接，密集，密閉の 3 密を防ぎ，他人との距離を十分に開ける「ソーシャルディスタンス」は社会の常識として広く認識されている. COVID-19が流行する前とは生活様式が変わってしまい，それにより生活満足度の変化もみられると考えられる.

また近年はインターネットの普及が進み，生活がより豊かで便利になってきている. e コマースを利用した買い物は外出抑制を促進し，ビデオ通話を利用した会議やコミュニケーションツールは，在宅勤務やオフピーク出勤へとつながり，コロナ禍においては感染症対策としても注目された.

生活満足度の要因分析を行っている既往研究としては，佐々木ら（2019）[1]，大木ら（2013）[2]，徳永（2012）[3]などが挙げられるが，新型コロナウイルス及び感染症対策として移動がしづらい情勢は考慮されていない.

そこで本研究では, COVID-19によって移動しづらくなった環境で「何が」生活満足度を「どのように」変化させたのか，今後このような状況になったときに、どのような施策があれば生活満足度が下がらないのかを検討できる生活満足度の評価軸，評価項目を設定するとともに，共分散構造分析を用いてこれらの関係を分析する.

2.　生活満足度の評価項目

2.1　評価方法

本研究では，共分散構造分析を用いて生活満足度，各評価項目，各評価項目の主観的評価と客観的変数間の因果関係を分析する. 共分散構造分析は, 直接観測できない潜在変数を導入し，その潜在変数と観測変数との間の因果関係を同定することにより社会現象や自然現象を理解するための統計的アプローチである．本研究では，評価項目，客観的変数を観測変数，生活満足度の評価軸を潜在変数とする.

2.2　評価軸・評価項目

本研究では, 既往研究を参考に「利便性」「快適性」「交流」「経済性」の 4 つを生活満足度の評価軸とする．また各評価軸についての評価項目を検討し，パス図を策定する．利便性については施設へのアクセスとインターネット普及による便利さ，快適性は居住環境，生活のしやすさ，交流は対面やインターネットを通してのコミュニケーションに対して，経済性は支出の多さを評価項目とする．また評価軸に影響を及ぼす客観的変数の項目を個人属性，環境特性とする．評価軸に対応した評価項目の詳細を表-1 に示す.

表-1　生活満足度の評価項目

評価軸	評価項目		
利便性	施設へのアクセスに対する満足度	職場・学校へアクセスしやすい	A1
		バス停へアクセスしやすい	A2
		鉄道へアクセスしやすい	A3
		大型商業施設へアクセスしやすい	A4
		食品スーパーへアクセスしやすい	A5
		コンビニへアクセスしやすい	A6
		レストラン・食堂へアクセスしやすい	A7
		居酒屋・バーへアクセスしやすい	A8
		カフェ・喫茶店へアクセスしやすい	A9
		美容室・理容室へアクセスしやすい	A10
		金融機関へアクセスしやすい	A11
		市役所へアクセスしやすい	A12
		娯楽施設へアクセスしやすい	A13
	外出頻度抑制満足度	ネットショッピングを利用する	A14
快適性		在宅勤務を行っている	A15
	すごしやすさの満足度	自宅はすごしやすい	A16
		移動中ははすごしやすい	A17
		職場・学校はすごしやすい	A18
		その他の主な外出先はすごしやすい	A19
交流	交流満足度	対面での友人・知人との交流	A20
		対面での家族・親類との交流	A21
		メール・SNSによる友人・知人との交流	A22
		メール・SNSによる家族・親類との交流	A23
		電話・ビデオ通話による友人・知人との交流	A24
		電話・ビデオ通話による家族・親類との交流	A25
経済性	経済性満足度	支出額が多い	A26

3.　アンケート調査

習志野市の住民を対象に,「COVID-19 流行前」,「2020 年の緊急事態宣言下」,「2020 年 12 月のアンケート調査時」の 3 つの時間軸それぞれの生活満足度（各評価軸，評価項目に対する満足度，総合満足度）と個人属性，地域属性の実態をアンケート調査する.

調査は 2020 年 12 月 10 日，12 月 11 日に実施し，配布数 1999 部，有効回答 533 部となった．調査結果のうち,「COVID-19 流行前」,「2020 年の緊急事態宣言下」,「2020 年 12 月のアンケート調査時」の 3 つの時間軸における利便性，快適性，交流，経済性, 全体的な生活満足度の集計結果を図-1, 図-2, 図-3 に示す.

図-1，図-2，図-3 より,「COVID-19 流行前」に比べて,「2020 年の緊急事態宣言下」,「2020 年 12 月のアンケート調査時」では生活満足度が大きく低下している．特に快適性と交流では 50%以上の人がやや不満，不満と感じており，マスク着用やソーシャルディスタンスなどの取り組みは，感染症対策として有効な手段であるが，生活の質は下げることを示唆している.

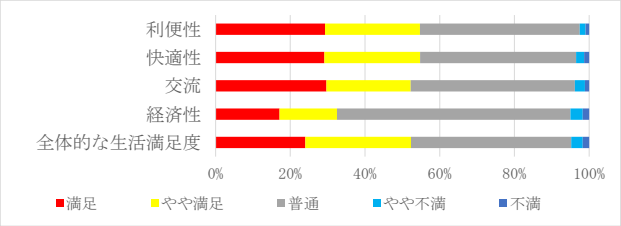

図-1　COVID-19 流行前の生活満足度

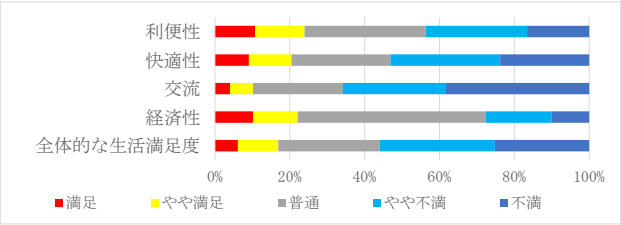

図-2　2020 年 4 月の緊急事態宣言下の生活満足度

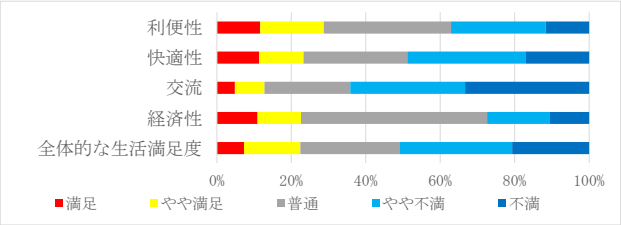

図-3　2020 年 12 月のアンケート調査時の生活満足度

4.　分析方法

アンケート調査で得られた集計データを用いて，「COVID-19 流行前」，「2020 年の緊急事態宣言下」，「2020 年 12 月のアンケート調査時」の 3 つの時間軸においての生活満足度，生活満足度の各評価軸，客観的変数の関係性を共分散構造モデルで分析し，住民の生活満足度に影響を与える要因を明らかにする．パス図については，関係があると思われる要因間に単方向パスを結ぶ．

5.　分析結果

「COVID-19 流行前」，「2020 年の緊急事態宣言下」，「2020 年 12 月のアンケート調査時」における生活満足度の要因分析の結果を図-4，各評価軸の要因間の総合効果の結果を表-2 に示す．モデル適合度について，「COVID-19 流行前」は GFI が 0.799，CFI が 0.676，RMSEA が 0.070，各評価軸から生活満足度への影響度が 30%となった．「2020 年 4 月の緊急事態宣言下」は GFI が 0.741，CFI が 0.544，RMSEA が 0.086，各評価軸から生活満足度への影響度が 39%となった．「2020 年 12 月のアンケート調査時」は GFI が 0.607，CFI が 0.551，RMSEA が 0.082，各評価軸から生活満足度への影響度が 39%となった．3 つの時間軸において，説明力の高い分析結果が得られなかった．

6.　まとめ

本研究では，習志野市の住民を対象に「COVID-19 流行前」「2020 年の緊急事態宣言下」，「2020 年 12 月のアンケート調査時」の 3 つの時間軸における生活満足度，及び各種評価項目の実態を把握し，共分散構造分析を用いて主観的評価と客観的変数の因果関係を分析した．

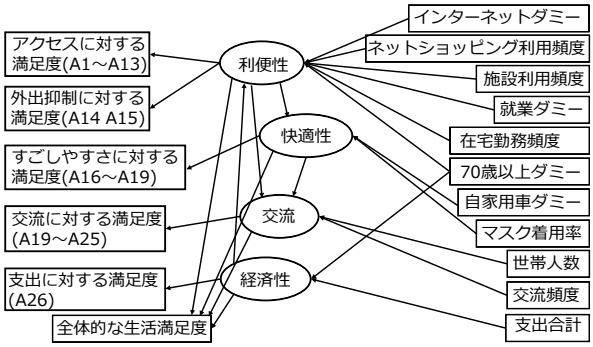

図-4　生活満足度の要因分析

表-2　各評価軸の要因間の総合効果

時期	総合効果	利便性	快適性	交流	経済性
COVID-19 流行前	全体的な生活満足度	0.11	0.35	0.29	0.36
	利便性	－	－	－	0.63
	快適性	0.35	－	－	0.22
	交流	0.39	0.47	－	0.25
	経済性	－	－	－	－
2020年4月の緊急事態宣言下	全体的な生活満足度	0.17	0.42	0.05	0.45
	利便性	－	－	－	0.19
	快適性	0.27	-0.14	－	0.05
	交流	0.02	0.16	－	0.00
	経済性	－	－	－	－
2020年12月のアンケート時	全体的な生活満足度	0.06	0.47	0.13	0.41
	利便性	－	－	－	0.13
	快適性	0.24	－	－	0.08
	交流	0.03	0.27	－	0.01
	経済性	－	－	－	－

分析結果から，説明力の高い結果を得ることができなかったが，「COVID-19 流行前」，「2020 年の緊急事態宣言下」，「2020 年 12 月のアンケート調査時」における生活満足度の要因の傾向が示された．

「COVID-19 流行前」においては利便性，経済性といった日常生活の軸となっている項目が生活満足度に大きな影響を与えている．しかし，「2020 年 4 月の緊急事態宣言下」においては，快適性，経済性が生活満足度に大きな影響を与えている．慣れていない生活様式や将来への収入や支出に対する不安が生活満足度の低下に繋がっていることが示唆された．「2020 年 12 月のアンケート調査時」では同様に快適性，経済性が生活満足度に大きな影響を与えていることがわかった．また，交流の影響度が増加していることから，緊急事態宣言が解除され，交流をする場所や機会が増加したことを示唆している．

参考文献

1)　西川孝樹，佐々木遊大，佐藤 徹治（2020）：谷津パークタウンにおける周辺環境が生活満足度に及ぼす影響分析，土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集（CD-Rom），Vol.47，No.4，IV-74

2)　大木麻郁，本田智貴（2013）：都市郊外部における住民の生活満足度の要因分析，千葉工業大学卒業論文

3)　佐々木公明，徳永幸之（2012）：地域交通と住民の幸福－「アマルティア・センの潜在能力」を反映した地域交通システムの評価－，運輸政策研究，Vol.14，No.4，pp.2-12